

二〇一〇年度(平成二二年度)

中学校第一回

入学試験問題

国語

注 意

左のことをよく読んで、**解答用紙**に解答を書きなさい。

(ア) まず初めに、受験番号と氏名を解答用紙(一枚)に書きなさい。

(イ) 問題をよく読んで、解答用紙のきめられた場所に解答を書きなさい。

(問題用紙に解答しても無効です)

(ウ) 時間は五〇分です。

(エ) この問題用紙は持ち帰ることはできません。試験終了後、回収します。

※答えは、別紙の解答らんに書き入れなさい。

一、次の問いに答えなさい。

モトイは、学校が始まって、忙しくなった。電車通学なので、朝は七時に家を出る。週末も、日本語、日本語で、土曜日の午後には、中野区の日本語ほしゅう教室というのに行く。日曜日は、教会のミサの後、四ツ谷の修道院での日本語教室に行く。中野三中には、帰国生のために「引き出し授業」というのがあって、モトイは英語の授業の時に、別の教室で国語の先生から勉強を教えてもらうそうだ。なんだかうらやましい。わからないところも、先生がくわしくつきつきり教えてくれるなんて。わたしは、塾でも、ひとりで教えてもらったことなんか無い。

モトイは、家で国語の勉強をした時、小学校三年生の教科書まで終わっていたので、それを経て「引き出し授業」で教えてもらうことになった。母は「やっ和小学三年生」と言うけれど、モトイは、一か月半で三年生の教科書の半分までできてしまったのだ。わたしは、もうすぐ追いつかれてしまうのではないかと、ドキドキした。あと少しで四年生の教科書に入ってしまう。もちろん、わたしの方が日本語を話せるし、本も読めるけれど、モトイの漢字をオボ^aえるスピードは、どんどん上がってきた。モトイは、母よりもわたしにいろんなことを聞いてくるが、わたしは、だんだん答えられないことが多くなってきた。

でも、学校の勉強は大変そうだった。最初の頃は、母がいつもわきに座って読み方を教えていたけれど、モトイはいつも「だいじょうぶ」と言う。それで、ひとりで勉強することが多くなっていた。母は、大学で英語を教えているので、とても忙しく、夜も勉強をしていることが多い。兄の勉強にはずつとついていられないので、「わからないところがあったら、お母さんに聞きなさい」と言い、すっかりモトイを信用していた。けれど、モトイは全然だいじょうぶではなかった。中学生になったら、中間テストというのがあるそうだが、その時の点数はだいじょうぶでなかったらしい。母は、

「こんな悪い点数見ると、めまいがする」

と言って、モトイをおこっていた。おこられていた兄も大変だけれど、おこっていた母も大変だった。いつもねむそう^で、疲れているように見える。母は、モトイとの

勉強が終わってから自分の仕事をするのだ。

③ 期末テストは、もつとひどかった。

「中間テストよりも自信がある」

と言うので、母は安心していったようだが、期末テストの結果が、いつまで待ってもこない。結局夏休みに入る三日前、学校から電話があり、モトイがテストの結果をかくしていたことがわかった。その時の母のばくはつは、すごかった。今までのテストをかくしていたり、できないことを正直に言わなかったことで、また夜中までおこられた。とうとう、

「なんでこんな結果になるの」

と母が言うと、モトイは小さい声で、

「日本語がわからないから」

と言う。

「そうじゃなくて、毎日ちゃんと勉強しなかったからじゃないの。日本語がわからないじゃなくて、勉強しなかったからだよ」

と、ますます声が大きくなる。

モトイは、

「でも、日本語がわからないから」

と同じことをくり返す。こういうことを言うと、次に母が言うことは決まっていた。

④ 「それはいい訳なの」

でも、母がそれを言う前に、モトイはまっすぐ母を見て、英語で言った。

「アイ ワズント ライク デイス イン アメリカ」

（ばくは、アメリカではこんなじゃなかった）

母は、何も言わず、モトイを見た。それから、考え込むようにテーブルに目を落として、黙っている。モトイは、立ったまま、くやしそうな顔で下を向き、涙をぼろぼろ落としている。それをふこうともせず、両手をぎゅつとにぎったまま……。

わたしには、モトイが言いたいことがわかるような気がした。モトイは、日本にきてから、「できない」ことが「できる」ことよりも多い。アメリカにいる時は、得意なものがたくさんあって、わたしがクリスマスに遊びに行った時、いろいろ教えてくれた。コンピュータのことよく知っていて、ホームページもかんたんにつくって

だけではなく、なんだか今までのモトイとは少しちがつて見える。帰りの会が終わり、四ツ谷の駅に向かう時、

「すごく楽しかった」

と何度も言い、母に、

「キャンプに行かせてくれて、ありがとう」

と、大ききにつり笑って言った。わたしは急に、アメリカにいた時のモトイの顔を思い出した。母はちよつとおどろいて、

「そうなの？ 楽しかったの？ よかったね」

とやさしそうに笑った。

電車の中でも、ずっとキャンプの話だった。みんなでご飯をつくったこと。きもだめしや花火をやったこと。自分の「かのうせい」について話しあったこと。その後、キャンプファイヤーでみんなで歌ったこと。感激して、泣いた子もいるという。モトイも、ちよつと涙が出たというので、母はじょうだん^づぽく、

「そっかあ、おこられて泣くのは（2）ちがつてたかな？」

と言って笑った。モトイは、

「日本にきて、一番楽しかった。本当に、本当にすごく楽しかった」

と何度も言う。そして、自分から、

「これからは、（3）勉強する」

とまで言いだした。中学生会の友だちが勉強のできる子ばかりだからだそう。自分も同じようになりたいからだと言う。同じレベルになりたいと言う。それからモトイは、ちよつとよれよれになった紙を広げて、わたしと母に見せた。

「これ、ぼくがつくったんだよ。りんたろうとぼくがつくって、歌ったんだよ」

それは、「かのうせい」を話し合った時に発表したものだった。最後の日、ひとりずつ、自分の「かのうせい」を考えて、みんなの前でひろうする。モトイは、中三のりんたろうくんといっしょに、キャンプの歌をつくった。りんたろうくんはギターをひきながらハーモニカをふく。モトイはドラムをたたく。持って行ったドラムスティックとドラムパッドを使って。

『夏を感じさせる真つ赤な太陽が

四日後、わたしと母が教会にむかえに行くと、（1）みんな帰ってきたところで、モトイは列の中からわたしに気づいて、はすかしそうに手をあげた。日に焼けた顔

僕らの気分をハらしてくれる

自然の緑にきれいな青空

このままでいい これがいい

みんなという時 たくさん笑顔で
つつまれている時には

本トに楽しくなる

緑のなかで みんなと楽しく遊ぶ

この夏キャンプ

この楽しい時間わすれないで

みんな思い出にきざもーよ」

ノートをヤブ^dいた紙には、モトイの字で、一番の歌詞が書かれてある。ちゃんと漢字が使われている。全部モトイの字だ。なんだか信じられない。モトイがこんなに漢字が書けることを、今、初めて知った。こんなに日本語が書けるんだ。それに、歌詞を書いただけじゃなく、りんたろうくんと二人で曲をつけて、歌って、えんそうしたんだ。モトイ、かっこいい。

「かのうせい」って、こういうことを言うのかと、少しわかったような気がする。自分ができること、自分が持っている力、本当の自分を見つけることなのだろう。モトイは、みんなの前で自分の「かのうせい」を発表して、それを確かめた。モトイはわかっていったんだ、自分の「かのうせい」を。

モトイが帰ってきて、母は、モトイにコンピュータのサイト作りをまかせることにした。それに、ドラムも、学校とかでできる方法を探してみよう、とモトイと約束した。もちろん、モトイは大よろこびだ。キャンプにも行けて、楽しい思いをして、帰ってきてこんなに大きな^eぼうびが待っていたのだから。

ドラムとコンピュータだけではなく、モトイには空手もある。六月には黄色の帯になったし、九月には初めて大会にも出るそう。モトイの「かのうせい」は増えるばかりだ。

①モトイの机の上には、キャンプでつくった歌詞が、いつもきちんと置いてある。

母は、そうじをしながら、時々それを開いて見ている。わたしは、今朝、その紙切れ

解したと考えられますか、次の中から記号で選びなさい。

ア できないところを母に聞いてもおこられるだけなので、これ以上、母にはわからないことを聞きたくないということ。

イ 自分の好きなドラムやコンピュータよりも日本語の勉強を先にしなければ、テストの問題が解けるようにはならないということ。

ウ できないところを先生にも母にも見せたくないが、分からないところは聞かなければできるようにはならないということ。

エ 勉強をしなければわかるようにならないと言われるのはいやだったが、結果を出せなければしかられても仕方がないということ。

問五 — 部⑤「「かのうせい」ってわたしは何のことだかわからない」とあるが、「わたし」がモトイの体験を聞いてわかった「かのうせい」とはどのようなことですか、本文中から探し、最初と最後の五字を書き抜きなさい。

問六 — 部⑥「こんなに大きなぼうび」とはどのようなことを指していますか、次の中から正しいものをすべて記号で選び、答えなさい。

ア コンピュータのサイト作りを母がまかせてくれたこと。

イ どこかでドラムもできる方法を探してみようと母が約束してくれたこと。

ウ キャンプに行けて楽しい思いまでして帰ってこられたこと。

エ 空手の帯が黄色の帯になり、九月に初めて大会に出られるようになったこと。

問七 — 部⑦「モトイの机の上には、キャンプでつくった歌詞が、いつもきちんと置いてある」とあるが、それはなぜだと思いますか、次の中から正しいものをすべて選び、記号で答えなさい。

ア 自分が持っている力や自分ができることを見つけるきっかけになったから。

イ 勉強のできる子みんなが歌った、日本に来て一番楽しい経験だったから。

ウ ドラムやコンピュータ、そして、空手と同じくたくさんある自分の「かのうせい」のひとつだから。

エ りんたろうくんにわからないところを相談し、はじめてちゃんと漢字を使って

の一番下に、小さく星印「もといのソロ」と書かれてあるのに気づいた。

「また きつと 来年もやってね

中学生会 夏キャンプ」

来年、モトイはどうなっているだろう。ドラムをやっているかな。空手の帯は何色かな。日本語はどの位うまくなっているだろう。

今、テーブルをはさんで、わたしの目の前で、モトイは漢字を練習している。母は、せんとくものを干したら、またモトイのわきに座る。母も大学が夏休みなので、毎日、モトイの横に座り、いっしょにがんばっている。母は、相変わらず、ちよっとだけほめて、あとはおこっている。モトイは相変わらず、しょっちゅう泣きながら勉強している。でも、漢字は、もうすぐ四年生の下教科書が終わる。最近、母から出される漢字のテストで、三十個もあるうち、モトイがまちがうのは一つか二つしかない。

モトイ、がんばって。「かのうせい」を、みんなの前で発表できるモトイ。泣いても、がんばるモトイ。モトイはわたしの自慢の(⑧)だ。

(hanae「小学生日記」より)

問一 — 部①「モトイはいつも『だいじょうぶ』と言う」のはなぜですか、「くから」に続く形でその理由をこれより後の本文中から二十四字で書き抜きなさい(ただし、読点を含む)。

問二 — 部②「期末テストは、もつとひどかった」とはどういうことですか、説明しなさい。

問三 — 部③「でも、母がそれを言う前に、モトイはまっすぐ母を見て、英語で言った」のはモトイがアメリカではどのような人物だったからですか、二十五字以内で説明しなさい。

問四 — 部④「少しだけうなずく」というしぐさからモトイがどのようなことを理

日本語で表現した歌詞だから。

問八 (⑧) にあてはまる最も適切な語句を漢字一字で答えなさい。

問九 — 部「つつまれている」の「れ」の意味・用法と合っているものを次から記号で選び、答えなさい。

ア おじさんが話されたことを忘れないでいよう。

イ 遠い空の向こうを見ていると、故郷が思い出された。

ウ ここから見られる場所ですか。

エ あの家窓が閉められたようです。

問十 (1) (3) にあてはまる適切な語句を次の中から記号で選びなさい。

ア ちゃんと イ ちよっと ウ ちようど

問十一 — 部 a d のカタカナを漢字で答えなさい。

a オボえる b エンソウ c ハらして d ヤブいた

二、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

私に親しいある老科学者が、ある日私に次のようなことを語って聞かせた。

「科学者になるには『あたま』がよくなくてはいけません。これは普通、世人の口にする一つの命題である。これはある意味では本当だと思われる。しかし、一方でまた「科学者はあたまが悪くなくてはいけない」という命題も、ある意味ではやはり本当である。そうしてこの後の方の命題は、それを指摘し解説する人が比較的少数である。

この一見相反する二つの命題は、実は一つのものの互いに対立し共存する二つの半面を表現するものである。この見かけ上のパラドックスは、実は「あたま」という言葉の内容に関する定義のあいまい不鮮明から生まれることはもちろんである。

論理の連鎖のただ一つの環をも取り失わないように、また混乱の中に部分と全体との関係を見失わないようにするためには、正確でかつ緻密な頭脳を要する。紛糾した可能性の岐路に立ったときに、取るべき道を誤らないためには、前途を見透す内容と直観の力をもたなければならない。すなわち、この意味ではたしかに科学者は「あたまで」が①なくてはならないのである。

A また、普通にいわゆる常識的にわかりきったと思われることで、そうして普通の意味でいわゆるあたまでの悪い人にも容易にわかったと思われるような尋常茶飯事の中に、何かしら不可解な疑点を認め、そうしてその闡明（明らかにすること）に苦吟するということが、単なる科学教育者にはとにかく、科学的研究に従事する者にはさらにいっそう重要必須なことである。この点で科学者は、普通の頭の悪い人よりも、もつともつともそのわがりの悪い、のみこみの悪い田舎者であり、ばくねんじんでなければならぬ。

B 頭のいい人は、いわば脚の早い旅人のようなものである。人より先に人のまだ行かないところへ行き着くこともできるかわりに、途中の道ばた、あるいはちよつとしたわき道にある肝心なものを見落とす恐れがある。頭の悪い人、脚ののろい人が、ずっと後からおくられて来てわけもなくその大事な宝物を拾って行く場合がある。

頭のいい人は、いわば富士の裾野まで来て、そこから頂上を眺めただけで、それで富士の全体をのみこんで東京へ引き返すという心配がある。富士はやはり登ってみなければわからない。

頭のいい人は見通しがきくだけに、あらゆる道すじの前途の難関が見渡される。少なくとも自分でそういう気がする。そのためにややもすると前進する勇気を沮喪しやうい。頭の悪い人は前途に霧がかかっているためにかえって樂觀的である。そうして難関に出あっても、存外どうにかしてそれを切り抜けて行く。どうにも抜けられない難関というのはきわめてまれだからである。

それで、研究の徒はあまり頭のいい先生にうつかり助言を乞うてはいけない。きつと前途に重畳する難関を一つ一つしらみつぶしに枚挙されて、そうして自分のせつかく楽しみにしている企図の絶望を宣告されるからである。委細かまわず着手してみると、存外指摘された難関は楽に始末がついて、指摘されなかった意外な難点

頭のいい人で、人の仕事のあらはわかるが自分の仕事のあらは見えないという程度の人がある。そういう人は、人の仕事をくさしながらも自分で何かしら仕事をして、そうして学界にいくぶんの貢献をする。しかしもういつそう頭がよくて、自分の仕事のあらも見えないという人がある。そういう人になると、どこまで研究しても結末がつかない。それで結局研究の結果をまとめないで終わる。C 何もしなかったのと、実証的な見地からは同等になる。そういう人はなんでもわかつているが、ただ「人間は過誤の動物である」という事実だけを忘却しているのである。一方ではまた、大小方円の見さかいかいもつかないほどに頭が悪いおかげで大胆な実験をし、大胆な理論をおおやけにし、その結果として百のまちがいの内に一つ二つの真を見つけて出して学界に何がしかの貢献をし、また誤って大家の名を博することさえある。しかし科学の世界では、すべてのまちがいは泡沫のように消えて真なもののみが生き残る。

それで何もしない人よりは何かした人の方が科学に貢献するわけである。

頭のいい学者はまた、何か思いついた仕事があった場合にでも、その仕事の結果の価値という点から見ると、せつかく骨を折つても結局大した重要なものになりそうもない、という見込みをつけて着手しないで終わる場合が多い。しかし頭の悪い学者はそんな見込みが立たないために、人からはきわめてつまらないと思われることでも何でも、がむしやらに仕事に取りついて、わきめもふらずに進行していく。そうしていううちに、初めには予期しなかったような重大な結果にぶつかる機会も決して少なくはない。この場合にも、頭のいい人は人間の頭の力を買いかぶって、天然の無際涯な奥行きを忘却するのである。科学的研究の結果の価値は、それが現われるまではたいにだれにもわからない。また、結果が出た時にはだれも認めなかった価値が、十年百年の後に初めて認められることもめずらしくはない。

頭がよくて、そうして、自分を頭がいいと思ひこころだと思ふ人は、先生にはなれども科学者にはなれない。人間の頭の力の限界を自覚して大自然の前におろかな赤裸の自分を投げ出し、そうしてただ大自然の直接の教えにのみ傾聴する覚悟があつて初めて科学者にはなれるのである。しかしそれだけでは科学者にはなれないことももちろんである。やはり観察と分析と推理の正確周到を必要とするのと言うまでもないことである。

つまり、頭が悪いと同時に頭がよくなくてはならないのである。

に出あうこともある。

頭のよい人は、あまりに多く頭の力を過信する恐れがある。その結果として、自然がわれわれに表示する現象が自分の頭で考えたことと一致しない場合に、「自然の方がまちがっている」かのように考える恐れがある。まさかそれほどでなくても、そういったような傾向になる恐れがある。これでは自然科学は自然の科学でなくなる。一方でまた自分の思ったような結果が出たときに、それが実は思ったとは別の原因のために生じた、偶然の結果でありはしないかという可能性を吟味するという大事な仕事を忘れる恐れがある。

頭の悪い人は、頭のいい人が考えて、はじめからだめにきまつているような試みを、一生懸命につづけている。やつと、それがだめとわかるころには、しかしたいてい何かしらだめでない他のものの糸口を取り上げている。そうしてそれは、そのはじめからだめな試みをあえてしなかつた人には、決して手に触れる機会のないような糸口である場合も少なくない。自然は書卓の前で手を束ねて空中に画を描いている人からは逃げ出して、自然のまんなかへ赤裸で飛びこんでくる人へのみ、その神秘の扉を開いて見せるからである。

頭のいい人には恋ができない。恋は盲目である。科学者になるには自然を恋人としなければならぬ。自然はやはりその恋人にのみ真心をうち明けるものである。科学の歴史はある意味では錯覚と失策の歴史である。偉大なるおろかももの、頭の悪い能率の悪い仕事の歴史である。

頭のいい人は批評家に適するが行為の人にはなりにくい。すべての行為には危険がともなうからである。⑤ 失敗をこわがる人は科学者にはなれない。科学もやはり頭の悪い命知らずの死骸の山の上に築かれた殿堂であり、血の河のほとりに咲いた花園である。一身の利害に対して頭がよい人は戦士にはなりにくい。

頭のいい人には他人の仕事のあらが眼につきやすい。その結果として、自然に他人のすることがおろかに見え、したがって自分がだれよりも賢いというような錯覚におちいりやすい。そうなると自然の結果として自分の向上心にゆるみが出て、やがてその人の進歩が止まつてしまふ。頭の悪い人には、他人の仕事がたいにみんなりつぱに見え、同時に、またえらい人の仕事でも自分にもできそうな気がするの、おのずから自分の向上心を刺戟されるといふこともあるのである。

この事実に対する認識の不足が、科学の正常なる進歩を阻害する場合がしばしばある。これは科学にたずさわるほどの人々の慎重な省察を要することと思われる。

最後にもう一つ、頭のいい、ことに年少鋭敏の科学者が、科学者としてはりつぱな科学者でも、時としておちいる一つの錯覚がある。それは、科学が人間の智慧のすべてであるかのように考えることである。科学は、孔子のいわゆる「格物」の学であつて「致知」の一部に過ぎない。しかるに、現在の科学の国士は、いまだウパニシャドや老子やソクラテスの世界との通路を一筋でももっていない。芭蕉や広重の世界にも手を出す手がかりをもっていない。⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ ㏀ ㏁ ㏂ ㏃ ㏄ ㏅ ㏆ ㏇ ㏈ ㏉ ㏊ ㏋ ㏌ ㏍ ㏎ ㏏ ㏐ ㏑ ㏒ ㏓ ㏔ ㏕ ㏖ ㏗ ㏘ ㏙ ㏚ ㏛ ㏜ ㏝ ㏞ ㏟ ㏠ ㏡ ㏢ ㏣ ㏤ ㏥ ㏦ ㏧ ㏨ ㏩ ㏪ ㏫ ㏬ ㏭ ㏮ ㏯ ㏰ ㏱ ㏲ ㏳ ㏴ ㏵ ㏶ ㏷ ㏸ ㏹ ㏺ ㏻ ㏼ ㏽ ㏾ ㏿ 㐀 㐁 㐂 㐃 㐄 㐅 㐆 㐇 㐈 㐉 㐊 㐋 㐌 㐍 㐎 㐏 㐐 㐑 㐒 㐓 㐔 㐕 㐖 㐗 㐘 㐙 㐚 㐛 㐜 㐝 㐞 㐟 㐠 㐡 㐢 㐣 㐤 㐥 㐦 㐧 㐨 㐩 㐪 㐫 㐬 㐭 㐮 㐯 㐰 㐱 㐲 㐳 㐴 㐵 㐶 㐷 㐸 㐹 㐺 㐻 㐼 㐽 㐾 㐿 㑀 㑁 㑂 㑃 㑄 㑅 㑆 㑇 㑈 㑉 㑊 㑋 㑌 㑍 㑎 㑏 㑐 㑑 㑒 㑓 㑔 㑕 㑖 㑗 㑘 㑙 㑚 㑛 㑜 㑝 㑞 㑟 㑠 㑡 㑢 㑣 㑤 㑥 㑦 㑧 㑨 㑩 㑪 㑫 㑬 㑭 㑮 㑯 㑰 㑱 㑲 㑳 㑴 㑵 㑶 㑷 㑸 㑹 㑺 㑻 㑼 㑽 㑾 㑿 㒀 㒁 㒂 㒃 㒄 㒅 㒆 㒇 㒈 㒉 㒊 㒋 㒌 㒍 㒎 㒏 㒐 㒑 㒒 㒓 㒔 㒕 㒖 㒗 㒘 㒙 㒚 㒛 㒜 㒝 㒞 㒟 㒠 㒡 㒢 㒣 㒤 㒥 㒦 㒧 㒨 㒩 㒪 㒫 㒬 㒭 㒮 㒯 㒰 㒱 㒲 㒳 㒴 㒵 㒶 㒷 㒸 㒹 㒺 㒻 㒼 㒽 㒾 㒿 㓀 㓁 㓂 㓃 㓄 㓅 㓆 㓇 㓈 㓉 㓊 㓋 㓌 㓍 㓎 㓏 㓐 㓑 㓒 㓓 㓔 㓕 㓖 㓗 㓘 㓙 㓚 㓛 㓜 㓝 㓞 㓟 㓠 㓡 㓢 㓣 㓤 㓥 㓦 㓧 㓨 㓩 㓪 㓫 㓬 㓭 㓮 㓯 㓰 㓱 㓲 㓳 㓴 㓵 㓶 㓷 㓸 㓹 㓺 㓻 㓼 㓽 㓾 㓿 㔀 㔁 㔂 㔃 㔄 㔅 㔆 㔇 㔈 㔉 㔊 㔋 㔌 㔍 㔎 㔏 㔐 㔑 㔒 㔓 㔔 㔕 㔖 㔗 㔘 㔙 㔚 㔛 㔜 㔝 㔞 㔟 㔠 㔡 㔢 㔣 㔤 㔥 㔦 㔧 㔨 㔩 㔪 㔫 㔬 㔭 㔮 㔯 㔰 㔱 㔲 㔳 㔴 㔵 㔶 㔷 㔸 㔹 㔺 㔻 㔼 㔽 㔾 㔿 㕀 㕁 㕂 㕃 㕄 㕅 㕆 㕇 㕈 㕉 㕊 㕋 㕌 㕍 㕎 㕏 㕐 㕑 㕒 㕓 㕔 㕕 㕖 㕗 㕘 㕙 㕚 㕛 㕜 㕝 㕞 㕟 㕠 㕡 㕢 㕣 㕤 㕥 㕦 㕧 㕨 㕩 㕪 㕫 㕬 㕭 㕮 㕯 㕰 㕱 㕲 㕳 㕴 㕵 㕶 㕷 㕸 㕹 㕺 㕻 㕼 㕽 㕾 㕿 㖀 㖁 㖂 㖃 㖄 㖅 㖆 㖇 㖈 㖉 㖊 㖋 㖌 㖍 㖎 㖏 㖐 㖑 㖒 㖓 㖔 㖕 㖖 㖗 㖘 㖙 㖚 㖛 㖜 㖝 㖞 㖟 㖠 㖡 㖢 㖣 㖤 㖥 㖦 㖧 㖨 㖩 㖪 㖫 㖬 㖭 㖮 㖯 㖰 㖱 㖲 㖳 㖴 㖵 㖶 㖷 㖸 㖹 㖺 㖻 㖼 㖽 㖾 㖿 㗀 㗁 㗂 㗃 㗄 㗅 㗆 㗇 㗈 㗉 㗊 㗋 㗌 㗍 㗎 㗏 㗐 㗑 㗒 㗓 㗔 㗕 㗖 㗗 㗘 㗙 㗚 㗛 㗜 㗝 㗞 㗟 㗠 㗡 㗢 㗣 㗤 㗥 㗦 㗧 㗨 㗩 㗪 㗫 㗬 㗭 㗮 㗯 㗰 㗱 㗲 㗳 㗴 㗵 㗶 㗷 㗸 㗹 㗺 㗻 㗼 㗽 㗾 㗿 㘀 㘁 㘂 㘃 㘄 㘅 㘆 㘇 㘈 㘉 㘊 㘋 㘌 㘍 㘎 㘏 㘐 㘑 㘒 㘓 㘔 㘕 㘖 㘗 㘘 㘙 㘚 㘛 㘜 㘝 㘞 㘟 㘠 㘡 㘢 㘣 㘤 㘥 㘦 㘧 㘨 㘩 㘪 㘫 㘬 㘭 㘮 㘯 㘰 㘱 㘲 㘳 㘴 㘵 㘶 㘷 㘸 㘹 㘺 㘻 㘼 㘽 㘾 㘿 㙀 㙁 㙂 㙃 㙄 㙅 㙆 㙇 㙈 㙉 㙊 㙋 㙌 㙍 㙎 㙏 㙐 㙑 㙒 㙓 㙔 㙕 㙖 㙗 㙘 㙙 㙚 㙛 㙜 㙝 㙞 㙟 㙠 㙡 㙢 㙣 㙤 㙥 㙦 㙧 㙨 㙩 㙪 㙫 㙬 㙭 㙮 㙯 㙰 㙱 㙲 㙳 㙴 㙵 㙶 㙷 㙸 㙹 㙺 㙻 㙼 㙽 㙾 㙿 㚀 㚁 㚂 㚃 㚄 㚅 㚆 㚇 㚈 㚉 㚊 㚋 㚌 㚍 㚎 㚏 㚐 㚑 㚒 㚓 㚔 㚕 㚖 㚗 㚘 㚙 㚚 㚛 㚜 㚝 㚞 㚟 㚠 㚡 㚢 㚣 㚤 㚥 㚦 㚧 㚨 㚩 㚪 㚫 㚬 㚭 㚮 㚯 㚰 㚱 㚲 㚳 㚴 㚵 㚶 㚷 㚸 㚹 㚺 㚻 㚼 㚽 㚾 㚿 㜀 㜁 㜂 㜃 㜄 㜅 㜆 㜇 㜈 㜉 㜊 㜋 㜌 㜍 㜎 㜏 㜐 㜑 㜒 㜓 㜔 㜕 㜖 㜗 㜘 㜙 㜚 㜛 㜜 㜝 㜞 㜟 㜠 㜡 㜢 㜣 㜤 㜥 㜦 㜧 㜨 㜩 㜪 㜫 㜬 㜭 㜮 㜯 㜰 㜱 㜲 㜳 㜴 㜵 㜶 㜷 㜸 㜹 㜺 㜻 㜼 㜽 㜾 㜿 㝀 㝁 㝂 㝃 㝄 㝅 㝆 㝇 㝈 㝉 㝊 㝋 㝌 㝍 㝎 㝏 㝐 㝑 㝒 㝓 㝔 㝕 㝖 㝗 㝘 㝙 㝚 㝛 㝜 㝝 㝞 㝟 㝠 㝡 㝢 㝣 㝤 㝥 㝦 㝧 㝨 㝩 㝪 㝫 㝬 㝭 㝮 㝯 㝰 㝱 㝲 㝳 㝴 㝵 㝶 㝷 㝸 㝹 㝺 㝻 㝼 㝽 㝾 㝿 㞀 㞁 㞂 㞃 㞄 㞅 㞆 㞇 㞈 㞉 㞊 㞋 㞌 㞍 㞎 㞏 㞐 㞑 㞒 㞓 㞔 㞕 㞖 㞗 㞘 㞙 㞚 㞛 㞜 㞝 㞞 㞟 㞠 㞡 㞢 㞣 㞤 㞥 㞦 㞧 㞨 㞩 㞪 㞫 㞬 㞭 㞮 㞯 㞰 㞱 㞲 㞳 㞴 㞵 㞶 㞷 㞸 㞹 㞺 㞻 㞼 㞽 㞾 㞿 㟀 㟁 㟂 㟃 㟄 㟅 㟆 㟇 㟈 㟉 㟊 㟋 㟌 㟍 㟎 㟏 㟐 㟑 㟒 㟓 㟔 㟕 㟖 㟗 㟘 㟙 㟚 㟛 㟜 㟝 㟞 㟟 㟠 㟡 㟢 㟣 㟤 㟥 㟦 㟧 㟨 㟩 㟪 㟫 㟬 㟭 㟮 㟯 㟰 㟱 㟲 㟳 㟴 㟵 㟶 㟷 㟸 㟹 㟺 㟻 㟼 㟽 㟾 㟿 㠀 㠁 㠂 㠃 㠄 㠅 㠆 㠇 㠈 㠉 㠊 㠋 㠌 㠍 㠎 㠏 㠐 㠑 㠒 㠓 㠔 㠕 㠖 㠗 㠘 㠙 㠚 㠛 㠜 㠝 㠞 㠟 㠠 㠡 㠢 㠣 㠤 㠥 㠦 㠧 㠨 㠩 㠪 㠫 㠬 㠭 㠮 㠯 㠰 㠱 㠲 㠳 㠴 㠵 㠶 㠷 㠸 㠹 㠺 㠻 㠼 㠽 㠾 㠿 㡀 㡁 㡂 㡃 㡄 㡅 㡆 㡇 㡈 㡉 㡊 㡋 㡌 㡍 㡎 㡏 㡐 㡑 㡒 㡓 㡔 㡕 㡖 㡗 㡘 㡙 㡚 㡛 㡜 㡝 㡞 㡟 㡠 㡡 㡢 㡣 㡤 㡥 㡦 㡧 㡨 㡩 㡪 㡫 㡬 㡭 㡮 㡯 㡰 㡱 㡲 㡳 㡴 㡵 㡶 㡷 㡸 㡹 㡺 㡻 㡼 㡽 㡾 㡿 㢀 㢁 㢂 㢃 㢄 㢅 㢆 㢇 㢈 㢉 㢊 㢋 㢌 㢍 㢎 㢏 㢐 㢑 㢒 㢓 㢔 㢕 㢖 㢗 㢘 㢙 㢚 㢛 㢜 㢝 㢞 㢟 㢠 㢡 㢢 㢣 㢤 㢥 㢦 㢧 㢨 㢩 㢪 㢫 㢬 㢭 㢮 㢯 㢰 㢱 㢲 㢳 㢴 㢵 㢶 㢷 㢸 㢹 㢺 㢻 㢼 㢽 㢾 㢿 㣀 㣁 㣂 㣃 㣄 㣅 㣆 㣇 㣈 㣉 㣊 㣋 㣌 㣍 㣎 㣏 㣐 㣑 㣒 㣓 㣔 㣕 㣖 㣗 㣘 㣙 㣚 㣛 㣜 㣝 㣞 㣟 㣠 㣡 㣢 㣣 㣤 㣥 㣦 㣧 㣨 㣩 㣪 㣫 㣬 㣭 㣮 㣯 㣰 㣱 㣲 㣳 㣴 㣵 㣶 㣷 㣸 㣹 㣺 㣻 㣼 㣽 㣾 㣿 㤀 㤁 㤂 㤃 㤄 㤅 㤆 㤇 㤈 㤉 㤊 㤋 㤌 㤍 㤎 㤏 㤐 㤑 㤒 㤓 㤔 㤕 㤖 㤗 㤘 㤙 㤚 㤛 㤜 㤝 㤞 㤟 㤠 㤡 㤢 㤣 㤤 㤥 㤦 㤧 㤨 㤩 㤪 㤫 㤬 㤭 㤮 㤯 㤰 㤱 㤲 㤳 㤴 㤵 㤶 㤷 㤸 㤹 㤺 㤻 㤼 㤽 㤾 㤿 㥀 㥁 㥂 㥃 㥄 㥅 㥆 㥇 㥈 㥉 㥊 㥋 㥌 㥍 㥎 㥏 㥐 㥑 㥒 㥓 㥔 㥕 㥖 㥗 㥘 㥙 㥚 㥛 㥜 㥝 㥞 㥟 㥠 㥡 㥢 㥣 㥤 㥥 㥦 㥧 㥨 㥩 㥪 㥫 㥬 㥭 㥮 㥯 㥰 㥱 㥲 㥳 㥴 㥵 㥶 㥷 㥸 㥹 㥺 㥻 㥼 㥽 㥾 㥿 㦀 㦁 㦂 㦃 㦄 㦅 㦆 㦇 㦈 㦉 㦊 㦋 㦌 㦍 㦎 㦏 㦐 㦑 㦒 㦓 㦔 㦕 㦖 㦗 㦘 㦙 㦚 㦛 㦜 㦝 㦞 㦟 㦠 㦡 㦢 㦣 㦤 㦥 㦦 㦧 㦨 㦩 㦪 㦫 㦬 㦭 㦮 㦯 㦰 㦱 㦲 㦳 㦴 㦵 㦶 㦷 㦸 㦹 㦺 㦻 㦼 㦽 㦾 㦿 㧀 㧁 㧂 㧃 㧄 㧅 㧆 㧇 㧈 㧉 㧊 㧋 㧌 㧍 㧎 㧏 㧐 㧑 㧒 㧓 㧔 㧕 㧖 㧗 㧘 㧙 㧚 㧛 㧜 㧝 㧞 㧟 㧠 㧡 㧢 㧣 㧤 㧥 㧦 㧧 㧨 㧩 㧪 㧫 㧬 㧭 㧮 㧯 㧰 㧱 㧲 㧳 㧴 㧵 㧶 㧷 㧸 㧹 㧺 㧻 㧼 㧽 㧾 㧿 㨀 㨁 㨂 㨃 㨄 㨅 㨆 㨇 㨈 㨉 㨊 㨋 㨌 㨍 㨎 㨏 㨐 㨑 㨒 㨓 㨔 㨕 㨖 㨗 㨘 㨙 㨚 㨛 㨜 㨝 㨞 㨟 㨠 㨡 㨢 㨣 㨤 㨥 㨦 㨧 㨨 㨩 㨪 㨫 㨬 㨭 㨮 㨯 㨰 㨱 㨲 㨳 㨴 㨵 㨶 㨷 㨸 㨹 㨺 㨻 㨼 㨽 㨾 㨿 㩀 㩁 㩂 㩃 㩄 㩅 㩆 㩇 㩈 㩉 㩊 㩋 㩌 㩍 㩎 㩏 㩐 㩑 㩒 㩓 㩔 㩕 㩖 㩗 㩘 㩙 㩚 㩛 㩜 㩝 㩞 㩟 㩠 㩡 㩢 㩣 㩤 㩥 㩦 㩧 㩨 㩩 㩪 㩫 㩬 㩭 㩮 㩯 㩰 㩱 㩲 㩳 㩴 㩵 㩶 㩷 㩸 㩹 㩺 㩻 㩼 㩽 㩾 㩿 㪀 㪁 㪂 㪃 㪄 㪅 㪆 㪇 㪈 㪉 㪊 㪋 㪌 㪍 㪎 㪏 㪐 㪑 㪒 㪓 㪔 㪕 㪖 㪗 㪘 㪙 㪚 㪛 㪜 㪝 㪞 㪟 㪠 㪡 㪢 㪣 㪤 㪥 㪦 㪧 㪨 㪩 㪪 㪫 㪬 㪭 㪮 㪯 㪰 㪱 㪲 㪳 㪴 㪵 㪶 㪷 㪸 㪹 㪺 㪻 㪼 㪽 㪾 㪿 㫀 㫁 㫂 㫃 㫄 㫅 㫆 㫇 㫈 㫉 㫊 㫋 㫌 㫍 㫎 㫏 㫐 㫑 㫒 㫓 㫔 㫕 㫖 㫗 㫘 㫙 㫚 㫛 㫜 㫝 㫞 㫟 㫠 㫡 㫢 㫣 㫤 㫥 㫦 㫧 㫨 㫩 㫪 㫫 㫬 㫭 㫮 㫯 㫰 㫱 㫲 㫳 㫴 㫵 㫶 㫷 㫸 㫹 㫺 㫻 㫼 㫽 㫾 㫿 㬀 㬁 㬂 㬃 㬄 㬅 㬆 㬇 㬈 㬉 㬊 㬋 㬌 㬍 㬎 㬏 㬐 㬑 㬒 㬓 㬔 㬕 㬖 㬗 㬘 㬙 㬚 㬛 㬜 㬝 㬞 㬟 㬠 㬡 㬢 㬣 㬤 㬥 㬦 㬧 㬨 㬩 㬪 㬫 㬬 㬭 㬮 㬯 㬰 㬱 㬲 㬳 㬴 㬵 㬶 㬷 㬸 㬹 㬺 㬻 㬼 㬽 㬾 㬿 㭀 㭁 㭂 㭃 㭄 㭅 㭆 㭇 㭈 㭉 㭊 㭋 㭌 㭍 㭎 㭏 㭐 㭑 㭒 㭓 㭔 㭕 㭖 㭗 㭘 㭙 㭚 㭛 㭜 㭝 㭞 㭟 㭠 㭡 㭢 㭣 㭤 㭥 㭦 㭧 㭨 㭩 㭪 㭫 㭬 㭭 㭮 㭯 㭰 㭱 㭲 㭳 㭴 㭵 㭶 㭷 㭸 㭹 㭺 㭻 㭼 㭽 㭾 㭿 㮀 㮁 㮂 㮃 㮄 㮅 㮆 㮇 㮈 㮉 㮊 㮋 㮌 㮍 㮎 㮏 㮐 㮑 㮒 㮓 㮔 㮕 㮖 㮗 㮘 㮙 㮚 㮛 㮜 㮝 㮞 㮟 㮠 㮡 㮢 㮣 㮤 㮥 㮦 㮧 㮨 㮩 㮪 㮫 㮬 㮭 㮮 㮯 㮰 㮱 㮲 㮳 㮴 㮵 㮶 㮷 㮸 㮹 㮺 㮻 㮼 㮽 㮾 㮿 㯀 㯁 㯂 㯃 㯄 㯅 㯆 㯇 㯈 㯉 㯊 㯋 㯌 㯍 㯎 㯏 㯐 㯑 㯒 㯓 㯔 㯕 㯖 㯗 㯘 㯙 㯚 㯛 㯜 㯝 㯞 㯟 㯠 㯡 㯢 㯣 㯤 㯥 㯦 㯧 㯨 㯩 㯪 㯫 㯬 㯭 㯮 㯯 㯰 㯱 㯲 㯳 㯴 㯵 㯶 㯷 㯸 㯹 㯺 㯻 㯼 㯽 㯾 㯿 㰀 㰁 㰂 㰃 㰄 㰅 㰆 㰇 㰈 㰉 㰊 㰋 㰌 㰍 㰎 㰏 㰐 㰑 㰒 㰓 㰔 㰕 㰖 㰗 㰘 㰙 㰚 㰛 㰜 㰝 㰞 㰟 㰠 㰡 㰢 㰣 㰤 㰥 㰦 㰧 㰨 㰩 㰪 㰫 㰬 㰭 㰮 㰯 㰰 㰱 㰲 㰳 㰴 㰵 㰶 㰷 㰸 㰹 㰺 㰻 㰼 㰽 㰾 㰿 㱀 㱁 㱂 㱃 㱄 㱅 㱆 㱇 㱈 㱉 㱊 㱋 㱌 㱍 㱎 㱏 㱐 㱑 㱒 㱓 㱔 㱕 㱖 㱗 㱘 㱙 㱚 㱛 㱜 㱝 㱞 㱟 㱠 㱡 㱢 㱣 㱤 㱥 㱦 㱧 㱨 㱩 㱪 㱫 㱬 㱭 㱮 㱯 㱰 㱱 㱲 㱳 㱴 㱵 㱶 㱷 㱸 㱹 㱺 㱻 㱼 㱽 㱾 㱿 㲀 㲁 㲂 㲃 㲄 㲅 㲆 㲇 㲈 㲉 㲊 㲋 㲌 㲍 㲎 㲏 㲐 㲑 㲒 㲓 㲔 㲕 㲖 㲗 㲘 㲙 㲚 㲛 㲜 㲝 㲞 㲟 㲠 㲡 㲢 㲣 㲤 㲥 㲦 㲧 㲨 㲩 㲪 㲫 㲬 㲭 㲮 㲯 㲰 㲱 㲲 㲳 㲴 㲵 㲶 㲷 㲸 㲹 㲺 㲻 㲼 㲽 㲾 㲿 㳀 㳁 㳂 㳃 㳄 㳅 㳆 㳇 㳈 㳉 㳊 㳋 㳌 㳍 㳎 㳏 㳐 㳑 㳒 㳓 㳔 㳕 㳖 㳗 㳘 㳙 㳚 㳛 㳜 㳝 㳞 㳟 㳠 㳡 㳢 㳣 㳤 㳥 㳦 㳧 㳨 㳩 㳪 㳫 㳬 㳭 㳮 㳯 㳰 㳱 㳲 㳳 㳴 㳵 㳶 㳷 㳸 㳹 㳺 㳻 㳼 㳽 㳾 㳿 㴀 㴁 㴂 㴃 㴄 㴅 㴆 㴇 㴈 㴉 㴊 㴋 㴌 㴍 㴎 㴏 㴐 㴑 㴒 㴓 㴔 㴕 㴖 㴗 㴘 㴙 㴚 㴛 㴜 㴝 㴞 㴟 㴠 㴡 㴢 㴣 㴤 㴥 㴦 㴧 㴨 㴩 㴪 㴫 㴬 㴭 㴮 㴯 㴰 㴱 㴲 㴳 㴴 㴵 㴶 㴷 㴸 㴹 㴺 㴻 㴼 㴽 㴾 㴿 㵀 㵁 㵂 㵃 㵄 㵅 㵆 㵇 㵈 㵉 㵊 㵋 㵌 㵍 㵎 㵏 㵐 㵑 㵒 㵓 㵔 㵕 㵖 㵗 㵘 㵙 㵚 㵛 㵜 㵝 㵞 㵟 㵠 㵡 㵢 㵣 㵤 㵥 㵦 㵧 㵨 㵩 㵪 㵫 㵬 㵭 㵮 㵯 㵰 㵱 㵲 㵳 㵴 㵵 㵶 㵷 㵸 㵹 㵺 㵻 㵼 㵽 㵾 㵿 㶀 㶁 㶂 㶃 㶄 㶅 㶆 㶇 㶈 㶉 㶊 㶋 㶌 㶍 㶎 㶏 㶐 㶑 㶒 㶓 㶔 㶕 㶖 㶗 㶘 㶙 㶚 㶛

問一 空らん ①に入る言葉を本文中から抜き出しなさい。

問二 — 部②「ぼくねんじん」の本文中での意味として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 素朴で素直に物事を受け止められる人
- イ 柔軟な発想を持ち、融通の利く人
- ウ 頭が固くて、愛想のない人
- エ 主体性があり、積極的に物事を進める人

問三 — 部③「わけもなくその大事な宝物を拾って行く場合がある」とあるが、「その大事な宝物」とはどういうものか、本文中から二十八字で探し、最初と最後の五字を書き抜きなさい(読点を含む)。

問四 — 部④「これでは自然科学は自然の科学でなくなる」とはどういうことか、説明しなさい。

問五 空らん ⑤に入る最も適切な一文を次から選び、記号で答えなさい。

- ア 転ばぬ先の杖である
- イ 石橋はたたいて渡るものである
- ウ 科学は一握りの成功の上になりたっている
- エ けがを恐れる人は大工にはなれない

問六 — 部⑥「そういう別の世界」とはどういう世界のことか、あてはまる具体例を次からすべて選び、記号で答えなさい。

- ア 地球温暖化や大気汚染を研究する世界
- イ 老子やソクラテスの世界
- ウ 芭蕉や広重の世界
- エ 科学教育者と科学商人の世界

問七 — 部⑦「忘れてならないこと」とあるが、それはどのようなことか、最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 科学ばかりが学のように思い誤ること
- イ 認識の人であることが障害となること
- ウ 大自然の直接の教えに傾聴すること
- エ 人間の頭の力の限界を自覚すること

問八 — 部⑧「この老科学者の世迷言」とあるが、本文中での意味として「世迷言」とは何ですか、三十五字以内でまとめなさい。

問九 空らん A C にあてはまる最も適切な語句を次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア しかし
- イ いわゆる
- ウ すなわち

問十 ……部の「だ」と同じ用法のものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア この選択が一番正しそうだ。
- イ この学校の教員だということを伝える。
- ウ この本の挿絵は、とても愉快だった。
- エ 貸してくれた雑誌はもうすでに読んだ。

問十一 — 部 a d の漢字をひらがなに直しなさい。

- a 混乱
- b 枚挙
- c 一筋
- d 優れた

[illegible]

--	--

点

点

点

点

点

点

点

点

点

点

点

合計点数
